

## 保坂氏の下北沢開発「見直し」表明に対するステートメント

2015年4月24日

下北沢行政訴訟原告団 代表 原田 学  
小田急訴訟弁護団長 弁護士 斉藤 驍  
小田急市民専門家会議 座長 力石定一  
同 事務局長 須田大春  
(小田急市民専門家会議は別紙一覧参照)

世田谷区長選は、直前まで現区長保坂展人に対する自公等の「相乗り」により小田急下北沢再開発を強行しようとしている勢力がありました。しかし、昨年の騒音等の勝利的和解等、小田急訴訟の25年にわたる公共事業の見直し、あるべき都市環境と文化の創造を目指してきた姿勢に対する支持の巨大な広がりとともに、現代の文明と政治に対する危機感が、主として無党派の国民の意識の底流に強く流れるようになり、開発の容認に過ぎない「相乗り」に対する批判が、小田急沿線の世田谷区では特に広がり、遂に自公と現職との選挙戦となりました。

保坂氏は、4年前、我が国最大の公共事業というべき連続立体交差事業の典型、下北沢再開発の「見直し」を公約として立候補しました。「内申書裁判」という選別、差別、管理社会に対する反抗という彼の人生の原点からすれば、これは当然の帰結でした。しかし、その後の彼の軌跡には、この原点との繋がりに疑問を生ずる言動が続いていたことは否定出来ません。我々は、彼が原点を大切にして「見直し」の公約をしたのだと善解することが、彼のためにも世の中のためにもなると考えて、推すことにしました。

けれども当選後の4年間の状況と彼の言動には、道路、鉄道を軸とする小田急連続立体再開発事業の地元世田谷の首長として、本当に「見直し」をする気があるのかどうか、疑問を持たざるを得ないことが続きました。その好個の例が下北沢を大きく分断し、この町の歴史と文化を台無しにする補助54号線等の優先整備であり、住民、世論、そして小田急訴訟の力により、下北沢地区が高架計画から地下計画へようやく転換が実現したにもかかわらず、その地表(所

謂「跡地」)に駐車場、商業施設を集積し、さらにその上に高架の道路を建設するというものです。これが強行されれば、開発の「見直し」どころか、極端な強行です。我々も含め、住民側は公約違反も甚だしいとして激しく批判、反発せざるを得なかったのは、大変残念でした。

しかしこのような愚行は、裁判と歴史、更には世論が許す筈ありません。今我々にかかる不条理な行政処分に対して行政訴訟によりその無効、取消を求める具体的な準備を進めており、区長選終了後に東京地裁へ提訴する運びになっています。

我々は、保坂展人氏が一日も早くこの愚行に気づき、原点に回帰する姿勢を取り戻してもらいたいと考え、様々なルートからこの旨を忠告してきましたが、その甲斐がやっと現れました。昨日(23日)の朝日新聞朝刊都内版の報道によれば、保坂氏は下北沢再開発の一部見直しを公表しました。そのなかに、上記の2点が明記されています。我々の心の一部が、ようやく彼の心に届いたようです。

原発がこれほどの被害を生む一方、地球規模の気候変動が問題になり、現に異常気象が続いていることは周知のことです。いま都市環境、とりわけ本件のような巨大な都市型公共事業の在り方を見直さなければ、まさに未来はありません。心ある多くの人々が実感していることです。保坂さんもようやく原点に一步大きく近づいたようです。元々このことを期待していた我々は、このような彼の「一部見直し」の表明を真摯なものとして受け止めたいと考えています。貴方の我々のアンケートに対するご回答も、これを示唆しているのではないのでしょうか。

我々の運動と裁判は、党派から自立した実に多くの市民の支持と協力により発展してきました。協力して頂いた学者、研究者、芸術家の主な方々だけで、別表のとおり我が国を代表する人々だといってよいでしょう。

保坂氏の「一部見直し」が、本当に今度は実行されることを期待しつつ、心ある多くの人々とともに我々は貴方を推しましょう。

以上

## 主な研究者・専門家一覧

- 1 小田急市民専門家会議  
鈴木武夫（元国立公衆衛生院院長）  
長田泰公（元国立公衆衛生院院長）  
大谷幸夫（東京大学名誉教授（工学部））  
清水 誠（都立大学名誉教授・法学博士（民法））  
力石定一（法政大学名誉教授）  
牧衷（元岩波映画取締役、シナリオライター）  
福川裕一（千葉大学工学部教授）  
須田大春（元法政大学講師、NPO 自動化推進協会元事務局長）
- 2 長田シュレー  
田村明弘（横浜国立大学名誉教授（工学部））  
平松幸三（元京都大学工学部教授） 内山巖雄（京都大学名誉教授）
- 3 政治学  
神島二郎（立教大学名誉教授・日本政治学会理事長）ほか  
阿利莫二（元法政大学総長）、飯坂良明（学習院大名誉教授）、  
井出嘉憲（東大名誉教授）、内田健三（元共同通信論説委員長）、  
内田満（早稲田大名誉教授）、内山秀夫（慶応大名誉教授）、  
岡野加穂留（元明治大学学長）、斉藤真（東大名誉教授）、  
坂本義和（明治学院大名誉教授）、篠原一（東大名誉教授）、  
高島通敏（立教大学名誉教授）、福島新吾（専修大名誉教授）、  
升味準之輔（都立大名誉教授）、武者小路公秀（元国連大学副学長）ら連名による意見  
書作成等
- 4 経済学 宇沢弘文（東大名誉教授・文化勲章受章者）他
- 5 社会学 船橋晴俊（学会理事長、原子力市民審査会委員長、法政大教授）、長谷川公一  
（東北大大学院教授）
- 6 (1) 法学、行政法 園部逸夫、濱秀和、塩野宏、原田尚彦、小早川光郎、阿部泰隆、山  
村恒年、芝池義一、奥平康弘 他  
(2) 法学、環境法 淡路剛久 大塚直 寺西俊一
- 7 高官等 現場の知識人  
高橋寿夫（運輸省航空局長、海上保安庁長官）他 次官級相当数
- 8 建築・土木学会 梨本幸男（不動産鑑定士）、土井健司（香川大学工学部教授）等 ※  
2003年の土木計画学研究発表会にて小田急問題を発表
- 9 文化財及び芸術 前野まさる（東京芸大名誉教授、日本エコモス前委員長）、  
岩崎淑（ピアニスト）、黒井千次、加賀乙彦、三田誠広
- 10 弁護士 堂野達也、辻誠等元日弁連会長計5名 ほかに1000名超